

地域の取組

高千穂町における放牧の概要

宮崎県西臼杵支庁
農政水産課





西臼杵の地勢

九州山脈を形成する山岳地帯の山懐にあって、地形は一般に険しく、平坦地が少なく林野面積は総面積の87.9%を占めるなど典型的な農山村地域である

各町の耕地と林野の面積(単位:平方キロメートル、%)

町名等/項目	総面積	耕地		林野	
		面積	比率	面積	比率
高千穂町	237.32	20.20	8.5	197.35	83.2
日之影町	277.68	7.99	2.9	254.26	91.6
五ヶ瀬町	171.77	7.89	4.6	151.78	88.4
西臼杵郡計	686.77	36.00	5.2	603.39	87.9
宮崎県	7,734.63	709.00	9.2	5,888.43	76.1

西臼杵の農地風景

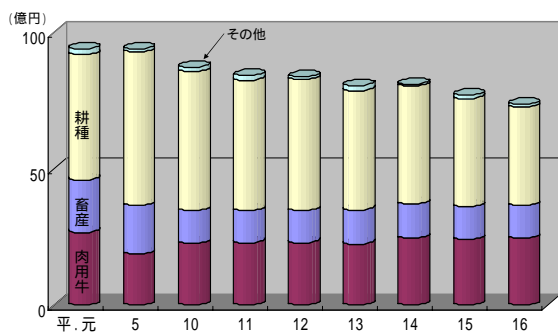


山間部の狭小な圃場



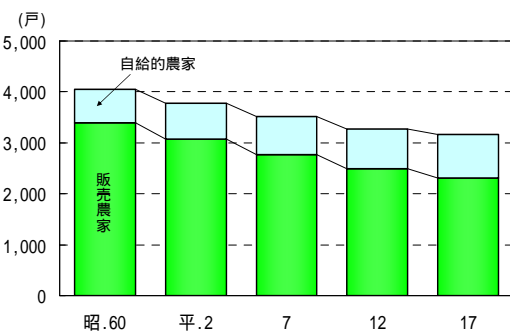
比較的整備されている圃場

西臼杵郡の農業産出額の推移

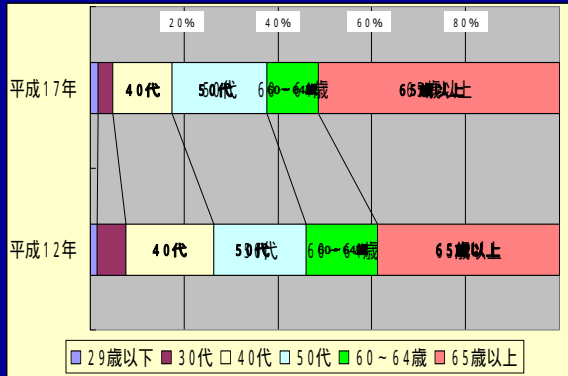


資料:『生産農業所得統計』

農家戸数の推移



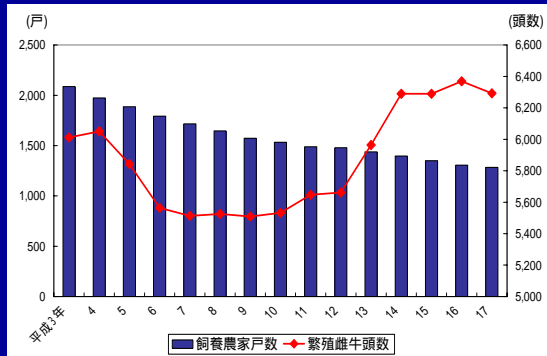
基幹的農業者の年齢別割合

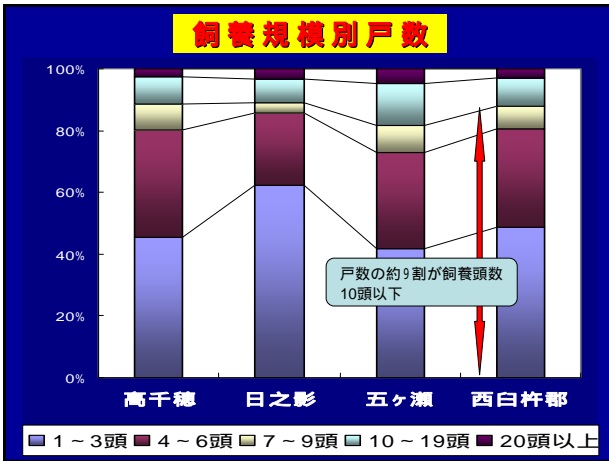


西白杵の肉用牛の現状



肉用繁殖雌牛の飼養戸数及び頭数の推移





- ### 西白杵地域における飼料自給率向上の取り組み
- **自給飼料確保対策**
 - 飼料生産調製機械導入事業による条件整備
 - 飼料作物の優良品種導入・生産技術の改善
 - 野草などの資源利用
 - 耕畜連携による堆肥と稲わら交換
 - **稲わらの地域外からの確保対策**
 - **放牧の推進**
 - 樹園地内放牧
 - 野草地、遊休地への放牧

- ### 自給飼料確保対策
- **飼料生産調製機械導入事業による条件整備**
 - 階段状の狭小な農地が多いため、県単事業等を活用した小型機械の導入
 - 作業の効率化、天候への柔軟な対応が出来るロール体系(ロールペーラ、ラッピングマシン)

小型機械の導入



自給飼料確保対策

● 飼料作物の優良品種導入や生産技術改善

西臼杵における飼料作物栽培体系

(春夏) トウモロコシ、ソルガム、暖地型牧草

(秋冬) イタリアンライグラス、エン麦、飼料用麦

(周年) 畦草などや“刈り干し”と表現される
山地野草利用が昔から盛んである

● 野草を利用する 刈り干し(トウビ) ~ 貯蔵の様子

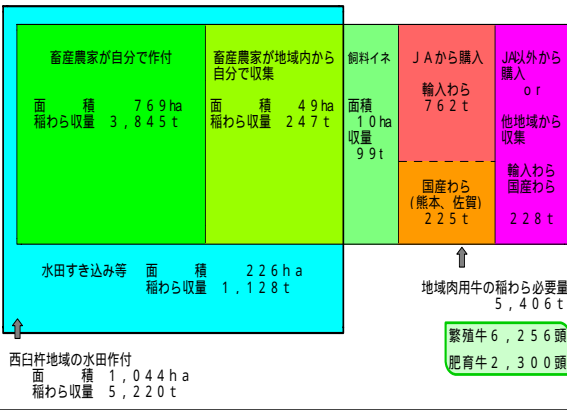


自給飼料確保対策

・ 耕畜連携による堆肥と稲わら交換

- 必要な稲わらの約8割は、地域内の水田等から耕種農家と畜産農家の連携により収集確保している
- 平成17年に中国産稲わらが輸入停止になってからは、農家へのパンフレット配布、防災無線による呼び掛けなどを行い、地元産稲わらの確保を強力に推進している

平成16年 西臼杵地域の稲わら需給状況



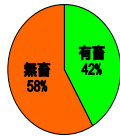
稲わら収集を呼び掛ける農家向けパンフレット



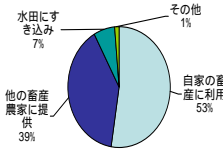
稲作農家の稲わら生産利用状況アンケート

西臼杵管内の稲作農家(2,553戸)への、稲わら生産と利用状況のアンケート結果
今後、地元で今以上に稲わら収集が可能な量がどれくらいあるかを把握する為に実施
アンケート回収率 約85%

肉用牛飼養の有無



稲わらの利用方法別の面積割合



- ・たい肥品評会の開催
- ・たい肥散布機の実演会
- ・畜産農家と耕種農家の意見交換会

稲わらの地域外からの確保対策

- ・JA高千穂地区が熊本県、佐賀県等の水田地帯から稲わらロールを確保し、繁殖農家、肥育農家に供給
 - ・土地条件、畜産農家の規模拡大、耕種農家の減少等により、これ以上の地元産稲わらの収集は困難
 - ・地域外の水田地帯からの稲わら確保を進めることが必要
 - ・平成17年に中国産稲わらが輸入停止になってからは、県外からの稲わら確保をより一層推進

平成17年 JA高千穂地区 国産稲わら確保、供給状況

H18.3.31 JA生産資材課

飼料受入先	内容	受入重量 (t)	供給重量 (t)		
			繁殖農家	肥育農家	肥育センター
熊本県	稲わらロール	66	43	23	0
佐賀県	稲わらロール	320	118	57	146
計 (構成割合)		386	161 (42%)	80 (21%)	146 (38%)

県外産稲わら受入状況



放牧の推進

● 樹園地(クリ園)放牧

H17秋に日之影町内のクリ園2ヶ所で試験実施

(目的)

山間地でのクリ栽培は、急傾斜であるため下草刈りや施肥・防除などの管理作業が重労働

牛を放牧することにより以下のメリットを期待

- クリ農家** 下草刈りの軽減
- 病害虫発生抑制
- シシ・鹿などの獣害対策

高齢化にも対応できる
省力的なクリ栽培

- 畜産農家** 除糞作業の軽減
- 管理の集約化

母牛管理の省力化
飼料自給率の向上

トレーナー牛を活用

放牧を始めるにあたって、(独)家畜改良センター宮崎牧場より放牧経験のある牛を2頭借り受け、トレーナー牛として活用した



上
放牧前のクリ園(10月)



下
放牧終了時のクリ園
(11月下旬)

ま と め

～西臼杵地域で飼料自給率を向上させるには～

- 飼料生産組織及び作業受託組織の育成
- 遊休農地等への放牧推進
- 耕畜連携による資源循環型農業の確立
- 地域、県域を越えた粗飼料の供給体制の確立
